

【資料2】佐倉市産業振興ビジョン 進捗管理シート（令和5年度）

1. 商業振興	指標（KPI）	基準値 （H30）	R1	R2	R3	R4	R5	目標値 （R6）
	地元商店街を利用する市民の割合	30.0%	-	35.1%	34.0%	37.4%		40.0%
	「商店街空き店舗等出店促進補助金」の支援件数	3件／年	6件	7件／13件	7件／20件	4件／24件		35件 （5年間の累計）
	起業塾（入門編）受講者の創業者数	7人／年	5人	3人／8人	2人／10人	6人／16人		35人 （5年間の累計）
	佐倉市スマートオフィスプレイスの登録者総数	-	317人	648人	807人	1177人		400人
	地域職業相談室への市内相談者の就職率	11.8%	12.5%	12.2%	13.5%	15.0%		15.6%

2. 工業振興	指標（KPI）	基準値 （H30）	R1	R2	R3	R4	R5	目標値 （R6）
	市内法人数	3,377法人	3,443法人	3,471法人	3,573法人	3,693法人		3,640法人
	企業誘致助成制度新規利用企業数	3社／年	4社	3社／7社	1社／8社	2社／10社		10社 （5年間の累計）
企業誘致助成制度活用による市内雇用人数	18人／年	5人	0人／5人	0人／5人	0人／5人		100人 （5年間の累計）	

3. 農業振興	指標（KPI）	基準値 （H30）	R1	R2	R3	R4	R5	目標値 （R6）
	認定農業者件数	112件	121件	127件	125件	128件		142件
	新規就農者数	6人／年	6人	7人／13人	3人／16人	8人／24人		10人 （5年間の累計）
商談会シートの作成件数	-	2件	0件／2件	0件／2件	4件／6件		40件 （5年間の累計）	

4. 観光振興	指標（KPI）	基準値 （H30）	R1	R2	R3	R4	R5	目標値 （R6）
	観光入込客数（イベントを除く）	147万人／年	123.3万人	88.6万人	109.3万人	117.5万人		156万人／年
観光協会の情報発信への「いいね」数	56,752 いいね	51,014 いいね	28,406 いいね	54,693 いいね	30,076 いいね		58,206いいね／年	

1. 商業振興

第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標 (KPI)	基準値 (H30)	R1	R2	R3	R4	R5	目標値 (R6)
地元商店街を利用する市民の割合	30.0%	-	35.1%	34.0%	37.4%		40.0%
「商店街空き店舗等出店促進補助金」の支援件数	3件/年	6件	7件/13件	7件/20件	4件/24件		35件(累計)
起業塾（入門編）受講者の創業者数	7人/年	5人	3人/8人	5人/13人	6人/19人		35人(累計)
佐倉市スマートオフィスプレイスの登録者総数	-	317人	648人	807人	1,177人		400人
地域職業相談室への市内相談者の就職率	11.8%	12.5%	12.2%	13.5%	15.0%		15.6%

① 現在の課題

- ・商店街地区をはじめ、市内では使用されていない「空き家」や「空き店舗」がH28年以降、増加傾向にあります。
- ・経営者の高齢化や個店の廃業などにより、活動を維持することが困難な商店会がでてきています。各商店会において、将来を見据えた商店会の組織強化や活性化事業計画の策定、次代を担う後継者・人材育成が必要となっています。
- ・多くの商店会で共同施設（街路灯など）が老朽化しており、事故発生を防止するために修繕を行う必要があります。
- ・県内の有効求人倍率は、令和4年1月頃から微増傾向にありますが、依然として1倍前後の数値を示しており、雇用情勢の改善のための取り組みが必要です。

② R5年度に実施した事業、成果

- ・商店街地区などでの空き店舗対策として、5ヶ月以上空いている「空き家」や「空き店舗」を使用して新たに事業を始めるかたなどに対して、補助金を交付しました。（R5：5事業者）
- ・商店街地区のにぎわい醸成を目的として開催するイベントやイルミネーションなど、「商業及び商店街の活性化」を目的として商業団体が実施する事業に対して補助を行いました。（R5：16事業）
- ・商店会が保有する街路灯の修繕事業などに対して補助を行いました。（R5：3事業）
- ・広く市民に聴講してもらうため、オンデマンド配信により、起業塾（入門編）を開催しました。（R5：2回（第1回オンデマンド開催：申込者116名・総再生回数381回、第2回オンデマンド配信：申込者71名・総再生回数224回））。
- ・佐倉市スマートオフィスプレイスでは、引き続き利用者数や登録者数が増加しました。また、利用者交流会（第1回参加者24名、第2回参加者20名、年度内にあと2回開催予定）や起業・創業セミナー（第1回参加者15名、第2回参加者9名、第3回参加者4名、年度内にあと2回開催予定）、ITセミナー（第1回参加者23名、第2回参加者12名、年度内にあと2回開催予定）を実施しました。
- ・産業まつりとアグリフォーラムを統合した「佐倉・産業大博覧会」は、本年度も同様に開催し、市内の商業事業者をはじめとして、飲食・物販ブースに118事業者・団体の出展があり、各事業者の活動を市民に広く啓発しました。（日時：R5年11月11日（土）、12日（日）、於・草ぶえの丘）
- ・千葉県ジョブサポートセンターやジョブカフェちばとの共催で就職セミナーを実施しました。（R5実施回数：3回、参加市民数：7名、年度内にあと1回開催予定）
- ・障害者雇用に積極的な事業者を表彰し、事例紹介することで、市内企業の障害者雇用を促進する「さくらユニバーサルカンパニー表彰」事業を昨年度に引き続き実施しました。1事業者からの応募があり、審査を経て1事業者の表彰及び各種広報媒体での雇用事例紹介を行いました。
- ・障害者を新たに雇い入れた市内事業者に「佐倉市障害者雇用促進奨励金」を交付予定です。（R4交付企業：4社、交付額150万5000円）
- ・従業員を被共済者として退職金共済契約をした中小企業者に対し、その掛け金の一部を補助する「佐倉市中小企業退職金掛金補助金」を交付予定です。（R4交付企業：41社、交付額113万5500円）

③ 施策の方向性

- ・産業大博覧会を引き続き開催し、市民への産業啓発を行います。
- ・産業大博覧会のコンセプト見直しや、他の市内産業啓発手法について、事業者の意見を伺いながら研究し、出展事業者の増加を図ります。
- ・商店街等の空き家、空き店舗解消を図るため、これらの物件を活用して出店する事業者に対して引き続き支援を行ってまいります。
- ・事業者間の交流の場として佐倉市スマートオフィスプレイスを提供することにより、利用者同士の交流による新規事業の創出等を図ります。
- ・商店会の活性化を図るために、引き続き支援を行ってまいります。
- ・市内の潜在的な障害者雇用優良事業者の発掘のため、今後もさくらユニバーサルカンパニー表彰事業を続けていきます。

⑤ その他、R5年度のトピック等

- ・物価高騰等に対する事業者支援施策として、PayPayと連携し、「キャッシュレスで佐倉を元気に！最大30%期間中1万ポイントまで戻ってくるキャンペーン」を実施しました。
- ・佐倉商工会議所が、R4年度に策定した、「経営発達支援計画」と「事業継続力強化支援計画」に基づき、景気動向調査の実施や「事業継続力強化計画」策定ワークショップの開催などの取り組みを行っています。

2. 工業振興

第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標 (KPI)	基準値 (H30)	R1	R2	R3	R4	R5	目標値 (R6)
市内法人数	3,377法人	3,443法人	3,471法人	3,595法人	3,693法人		3,640法人
企業誘致助成制度新規利用企業数	3社/年	4社	3社/7社	1社/8社	2社/10社		10社 (5年間の累計)
企業誘致助成制度活用による市内雇用人数	18人/年	5人	0人/5人	0人/5人	0人/5人		100人 (5年間の累計)

① 現在の課題

- ・市内工業団地等の企業立地適地は飽和状態であり、企業誘致事業を推進する上で用地不足が大きな懸案事項となっています。
- ・圏央道の開通等、周辺環境の変化により自治体間競争が激化することが見込まれており、既存企業の移転や事業規模縮小を防ぎ、市民の安定した雇用を確保するため、企業の設備投資等の新たな事業展開に必要な支援を行う必要があります。
- ・各工業団地は造成から相当年が経過しており、道路や排水設備等のインフラ整備が必要となっています。工業団地付近の道路補修や幹線道路の渋滞対策等について、商工会議所や工業団地連絡協議会等と情報交換を密に図りながら、関係部署と連携して改善に努める必要があります。

② R5年度に実施した事業、成果

- ・企業支援ワンストップサポートデスク（市商工振興課内に設置）で進出相談から開発等に伴う各種行政手続、進出後のフォローに至るまで一貫した対応を行いました。
- ・企業誘致・再投資促進助成金の対象となる指定企業2社について、年度内の決定に向け、現在審査を進めています。
- ・企業誘致・再投資促進助成金を10社に交付しました。
- ・生産性向上を図り、工場の増設や機械の高度化等を行う企業3社に対して、先端設備等導入計画の認定（変更を含む）を行いました。
- ・佐倉工業団地連絡協議会、佐倉第三工業団地連絡協議会に対し、補助金を交付しました。
- ・上記の両協議会が、事業者交流や情報交換、地域貢献活動を行っており、コロナウィルスの影響により一部事業が中止となったものの、地域清掃等の美化活動などを通じて、事業者間の交流が図られました。
- ・両協議会を通じて、国・県・市の事業を周知するなど、情報発信を行いました。また、協議会からの地域における改善要望について、関係課と連携し対応しました。
- ・11月に「佐倉・産業大博覧会」を開催し、市内産業PRブースには、工業事業者をはじめとして43事業者・団体の出展がありました。
- ・ハローワーク成田との共催で、市内工業団地企業と求職者のマッチングの場として「佐倉市内工業団地会社説明会・面接会」を予定しています。（R6年2月22日開催予定）

③ 施策の方向性

- ・新たな産業用地の確保について、引き続き研究を進めてまいります。
- ・市外企業の進出促進、既存企業の留置のため、工場の新設や再投資等に対して企業誘致・再投資促進助成金（固定資産税・都市計画税額分の助成、地元雇用促進奨励等）等により引き続き支援します。
- ・両工団連の活動がより積極的に展開されるよう、引き続き支援します。
- ・商工会議所、工団連、事業者の協力を得て、事業者の交流機会を増加させます。
- ・産業大博覧会を引き続き開催し、市民への産業啓発を行います。

⑤ その他、R5年度のトピック等

- ・ちばリサーチパーク内の千葉市と佐倉市がまたがる用地に、ヤクルトの新工場が建設されることが決定しました。現在四街道市にある株式会社千葉ヤクルト工場が移転し、将来に向けた次世代型の工場として、R6年夏に着工、R9年春の操業開始に向けて、協議が進められています。

3. 農業振興

第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標 (KPI)	基準値 (H30)	R1	R2	R3	R4	R5	目標値 (R6)
認定農業者件数	112件	121件	127件	125件	128件		142件
新規就農者数	6人/年	6人	7人/13人	3人/16人	8人/24人		10人 (5年間の累計)
商談会シートの作成件数	-	2件	0件/2件	0件/2件	4件/6件		40件 (5年間の累計)

① 現在の課題

- ・農業従事者の減少・高齢化に伴う低未利用の農地の拡大や担い手の減少に歯止めをかけるため、後継者の育成や新規就農者の就農支援、中心的な農業者に対する施設・機械の整備や経営に対する支援が必要となっています。
- ・現在の農業機械に対応できない小区画の農地や分散している農地も多く、基盤整備事業などを通じて、生産性の高い圃場を整備する必要があります。
特に、主食用米は国内需要量の減少が長期的な傾向であり、これによる収益力の低下を補うため、圃場の集積・集約による労働生産性向上と併せて、主食用米からの転作拡大が求められています。
- ・厳しい産地間競争や輸入農産物との競合などで従来の生産構造での収益性の確保が難しくなっており、市場ニーズを的確に捉えた競争力の高い品目の生産が必要です。
そのため農産物加工品や環境に配慮した農産物等について、需要者の求める情報を商談会シートとしてバイヤーに提供するなど、市場関係者との調整や積極的な商品開発を行う農業者への支援が望まれています。
- ・耕作放棄地の拡大や温暖化等の影響により、有害鳥獣や外来生物などによる農作物被害の拡大が懸念されており、異常気象への対応や国際情勢などによる物価高騰など、厳しい経営環境に適応する必要があります。

② R5年度に実施した事業、成果

- ・中心的な担い手として期待される認定農業者に対し、農業経営改善計画の達成に向け、機械や設備等の購入経費の一部を助成（10名）しました。
- ・就農希望者に対するきめ細かな就農相談や農業委員会と連携した農地のあっせんなどにより、市外在住者も含め6名が新たな農業者として市内で就農しております。また、新規就農に必要な機械や資材等の導入経費などの初期投資について、費用の一部を助成（1名）しました。
- ・稲作農家の経営安定のために、主食用米のみに頼らない生産（飼料用米やWCS用稲、米粉用米、加工用米など非主食用米等への転換）を推進しました。（転換面積は約328ha）
- ・競争力のある農業生産を促進するため、農産物等を加工する際の機械導入や新たな地場産品の生産に向けた取り組み等の経費の一部を助成（4名）しました。なお、商談会シートについては、これまで参加していた県主催の商談会がコロナ禍で事業縮小となってしまったため活用機会が減少していますが、情報発信も含め幅広く活用できるように、作成した資料（今年度は4件を予定）を農業者に提供するとともに、市のホームページやSNSで活用しております。
- ・農地の保全や多面的機能（自然環境の保全等）の維持・発揮のため、農業者を含む地域住民で組織する24団体を支援しました。
- ・有害鳥獣対策としてイノシシ対策を拡大しました。農作物を守るための電気柵購入（3名）やわな免許の取得補助（1名）に対する助成を実施するとともに、令和4年度に鳥獣被害対策実施隊を設置し、地域での取り組みを支援することで、市内全体での捕獲件数は54頭（R4年度）から57頭（R5度12月末）に増加しました。
- ・農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略」を受け、佐倉市地域農業再生協議会として、有機農業の推進を目的に設置した「佐倉市オーガニックビレッジ検討部会」を推進部会として（2回）を開催し、試行的取組を実施しました。

③ 施策の方向性

- ・競争力のある農業経営を目指す認定農業者を育成します。
- ・新たな担い手となる新規就農者を育成し支援します。
- ・収益性の高い農業を実現のため、商談会シート活用などを通じて農業の6次産業化を支援します。
- ・市内農業の中心である水田経営において主食用米から他の作物への転換を推進します。
- ・佐倉の農畜産物を啓発し、市内各直売所や小売業者などでの販売の拡大を支援します。
- ・生産性の高い圃場を創出するための基盤整備を推進します。
- ・地域における話し合い等により地域の農業の在り方についての合意形成ををサポートします。
- ・農地や農業用水等の資源の保全管理に取り組む活動団体を支援します。
- ・有害鳥獣や外来生物による農作物被害防止のため、原因となる動植物の捕獲や駆除の支援します。
- ・持続可能な農業を実現するため、有機農業を含む様々な取り組みにより、農業分野における環境負荷の軽減と農産物の生産振興の両立を目指します。

⑤ その他、R5年度のトピック等

- 【R5】
- ・5月に千葉ロッテマリーンズの地域密着イベントであるALL for CHIBA 佐倉市（通称：佐倉市デー）にて、佐倉の農業の周知を目的とした振る舞いイベントを開催しました。（先着1,000名様に、佐倉産「やまと芋」1個を配布。）
 - ・農業を含めた市内産業の活性化と発展に向け、11月に「佐倉・産業大博覧会」を開催しました。（来場者数は出展者及び関係者も含め2日間で5,700人が参加。市内の農業者29団体が出展）
 - ・農業生産資材高騰緊急対策事業により、営農の継続に向けた経済的負担の軽減目的として、物価高騰分（9.3%）の1/2相当を支援（上限20万円）しました。（計337件18,127千円12月末）
 - ・令和4年度に設置した鳥獣被害対策実施隊（隊員33名）により81回活動（12月末現在）を行うなど、地域での獣害対策の取組を強化しております。
 - ・佐倉市オーガニックビレッジ検討部会での試行的取組は、先進有機農業者の視察、有機農業セミナー・研修会開催（4回）、展示会への出展、有機農産物に対するアンケート調査の実施、学校給食における有機農産物の活用促進（市内全小中学校での有機米の提供）などを実施しております。

4. 観光振興

第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標 (KPI)	基準値 (H30)	R1	R2	R3	R4	R5	目標値 (R6)
観光入込客数（イベントを除く）	147万人／年	123.3万人	88.6万人	109.3万人	117.5万人		156万人／年
観光協会の情報発信への「いいね」数	56,752 いいね	51,014 いいね	28,406 いいね	54,693 いいね	30,076 いいね		58,206いいね／年

① 現在の課題

- 平成28年4月に、城下町佐倉の街並み等が日本遺産「北総四都市江戸紀行～江戸を感じる北総の町並み～」に認定されたものの、町並みの変容や古民家の喪失が進行しています。また、観光客の滞在時間の増加や回遊性の向上による消費喚起の取組が求められています。
- 佐倉ふるさと広場は、イベント期間中は多くの観光客で賑わいますが、イベントが無い時期は来場者が少なく、年間を通じ観光客を呼び込むことが求められています。
- 市外での佐倉市の認知度は低く、魅力的な観光商品の造成や営業活動の強化、情報発信の充実が求められています。

② R5年度に実施した事業、成果

- 各旅行会社へ佐倉市の観光プロモーションを行い、多数のバス旅行の来訪がありました。(R4:134台3,170名、R5:178台5,403名)
- 佐倉ふるさと広場でフラワーフェスタを実施しました。
(R5来場者：4月チューリップ135,000名、7月ひまわり30,000名、10月コスモス30,000名)
- 春の観光イベントとして、「桜に染まるまち、佐倉」「佐倉城址の桜」を開催しました。(R5)
(来場者：桜に染まるまち未計測、佐倉城址の桜15,000名)
- 4年ぶりに印旛沼湖畔を会場にして佐倉市民花火大会を開催しました。
- 新たな観光資源発掘のため、印旛沼でカヤック体験を実施しました。(R5：参加者30名)
- 市所有古民家でトライアルサウンディングを行い、多数の事業を開催しました。(12事業者、延べ62日開催)
- 千葉県誕生150周年記念行事オープニングイベントに参加し、観光PR及び特産品販売を行いました。
- JR東日本主催のBOSO地酒バルトレイン事業に参加し、観光PR及び特産品販売を行いました。
- 日本遺産フェスティバルin八王子に出展し、観光PR及び特産品紹介を行いました。
- 来訪者の滞在時間を増やすため、市内で開催されている体験メニューの情報をHPを通じて発信しました。
- 訪日外国人観光客へのプロモーションとして、一都四県で作成するPR動画の撮影場所に選ばれました。
- 佐倉ふるさと広場にかぼすちゃんモニュメントが寄付され、サクライクの取材を行い、情報発信をしました。
- ちば文化資産の追加登録があり、周知する動画広告を掲出、エントランスギャラリーの展示替えを実施しました。
- 千葉ロッテマリーンズALL for chibaに参加し、観光情報の周知などを実施しました。
- フィルムコミッション事業にて、ロケ誘致資料を作成し、都内制作会社へプロモーションを実施しました。

② 施策の方向性

- 千葉県及び日本遺産の4都市が連携して、日本遺産の周知、地域の特性を活かした観光誘客に取り組みます。
- 観光ランドデザイン「観光Wコア構想」に基づき、以下のとおり、集客・消費の核となる観光拠点を整備します。
 - 1)歴史観光の拠点である城下町地区で、古民家の有効活用を進め、滞在時間の増加や回遊性の向上を図ります。
 - 2)豊かな自然を有する印旛沼周辺で、ふるさと広場の拡張・整備を進め、年間を通じて観光客が訪れるようにします。
- 既存のイベントの内容を充実するとともに、新たなイベントの開催など、消費や回遊につながる仕組みを構築します。
- ターゲットに合ったモデルコースや体験プログラム等の商品造成、営業活動の強化、ICTを含めた様々なメディアを活用した情報発信等を行います。

⑤ その他、R5年度のトピック等

- 【R5】
- 4月に北総観光連盟の一員としてサイクルモード東京へ出展。
 - 6月ににわのわを開催。
 - 6月に千葉ロッテマリーンズ ALL for chiba に参加。
 - 6月に新日本プロレス佐倉大会を開催（初開催）
 - 8月に印旛沼で花火大会を開催（4年ぶり）
 - 8月に市内ちば文化資産を周知する動画広告を掲出。
 - 9月にエントランスギャラリーをちば文化資産を周知する内容に展示替え。
 - 10月に秋祭りを開催。（全面開催は5年ぶり）
 - 11月にかぼすちゃんモニュメントが完成。
 - 佐倉市内で撮影した映画「水は海に向かって流れる」「おまえの罪を自白しろ」や、「モヤモヤさまぁ～ず2」、「ミステリという勿れ」、「大奥」他多数のテレビ番組が放送。